

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	0153680046		
法人名	社会福祉法人 緑星の里		
事業所名	グループホーム ハーモニー		
所在地	苫小牧市字植苗51番地156 (電 話) 0144-58-2245		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年3月24日	評価確定日	平成22年5月10日

【情報提供票より】 (22年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤14人, 非常勤	4人, 常勤換算 10.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	2階建ての	1 ~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~31,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 13,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (3月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護 1	3 名	要介護 2	8 名		
要介護 3	5 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	苫小牧東病院、道央佐藤病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営法人「緑星の里」の中であって、身体・知的に障害を負っている人や高齢の人達が共に尊厳を守られ、支え合って生活している一帯「福祉村」に位置するグループホームです。利用者と職員は、支援する・される側を思わせない互いに心を寄り添い、温かみのある人間関係の中で、協働し和やかな生活をつくりあげ、四季折々に変化する自然と向き合い、季節感を楽しみながら、ゆっくりゆったりと過ごしています。運営法人ではホームの介護に対する13項目についてアンケートを実施し、ポイントは数値化し意見・要望は文章化して、共に家族の意見として前向きに受け止め、組織的に対応し質の向上に努めています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で改善を期待する項目は14件です。ホーム長が中心になり組織的に取り組みが行なわれ8件が改善されました。「理念の共有と日々の取り組み」「地域とのつきあい」「運営推進会議を活かした取り組み」など、6件は継続課題として検討が続いています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム長は評価の意義・目的などについて全職員に伝え、ユニット単位に職域の範囲で、職員一人ひとりに「取り組みの事実」と「取り組んでいきたい内容」について聴き取りし、内容を整理し纏め上げ作成しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域住民代表や行政代表を構成メンバーに年3回開催し、ホームの運営・外部評価の公表・消防法改正による措置などについて報告し、意見交換を通してサービスの質の向上に活かしていますが、運営推進会議の意義や役割などを再確認し、2ヵ月毎の開催と共に有識者などの構成メンバーの拡大を図り、幅広い立場の方々から多くの意見を拝聴し、サービスの質の確保に活かすことを期待します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情表現が難しい家族の心情を考慮し、ホームの介護に対する13項目について家族アンケートを実施し、ポイントは数値化し意見・要望は文章化して、共に家族の意見として前向きに受け止め、組織的に対応し運営に反映させています。苦情に関する第三者委員会を設置し、処理体制を整えています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人の緑星祭りには、大勢の地域住民の方々に参加し交流が行なわれていますが、ホームとして地域の行事・活動への参加や人々の関わりが少なく、利用者が地域で暮らし続ける基盤作りが十分ではありません。地域行事や活動に積極的に参加し、地域住民の方々との交流を通して、利用者一人ひとりが地域とつながりながら、暮らししていける基盤作りを期待します。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人「緑星の里」の理念を具現化したホーム独自の理念は、21年度に見直しを行ない、地域密着型サービスとしての役割を目指す内容の基本理念「地域社会の中で人と人のふれあいを大切にする」を作り上げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の介護実践が基本理念に基づいたものになるように、ミーティングやケア会議などで話し合われることがなく、理念に沿ったサービス提供が行なわれている状況ではありません。	○	理念について職員間で話し合いの機会を持ち、理念の意識づけを行なうなど、実践化に向けた取り組みを期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の緑星祭りには、大勢の地域住民の方々が参加し交流が行なわれていますが、ホームとして地域の行事・活動への参加や人々との関わりが少なく、利用者が地域で暮らし続ける基盤作りが十分ではありません。	○	地域の行事や活動に積極的に参加し、地域住民の方々との交流を通して、利用者一人ひとりが地域とつながりながら、暮らしていける基盤作りを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長が評価の意義・目的を全職員に伝え、職員一人ひとりから「取り組みの事実」と「取り組んでいきたい内容」について聴取し、纏めあげ、自己評価を完成させました。外部評価の結果は職員に報告し、改善に向け取り組んでいます。		

苫小牧市 グループホーム ハーモニー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民代表や行政代表を構成メンバーに年3回開催し、ホームの運営・外部評価の公表・消防法改正による措置などについて報告し、意見交換を通してサービスの質の向上に活かしています。	○	運営推進会議の意義や役割などを再確認し、2ヵ月毎の開催と共に有識者など構成メンバーの拡大を図り、幅広い立場の方々から多くの意見を拝聴し、サービスの質の確保に活かすことを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム長は、市の認知症認定委員として担当者との交流を深め、日々のホームの状況報告を始め、諸手続きの相談やすり合わせ・課題解決にむけて具体的な指導をいただいています。また、グループホーム連絡会の研修会には講演を通し指導を受けるなど、協働関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時には、利用者の日常生活の様子や体調面について報告し、通院の前後には必ず体調の状況や受診の結果について電話報告をしています。年4回写真満載のハーモニー通信を発行し暮らしぶりを伝えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営法人では、ホームの介護に対する家族アンケートを実施し、ポイントを数値化し意思・要望は文章化して、共に家族の意見として前向きに受け止め、組織的に対応し運営面に反映しています。苦情に関する第三者委員会を設置し、処理体制を整えています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係を重視し、法人内異動を最小限に抑え、異動後は顔見せ訪問を行なっています。退職を極力抑えるため内部研修を充実させ、法人の人事課では悩み解消の相談に応じ、やむを得ない退職の場合は、1ヵ月を引き続き期間とし、ダメージ緩和と介護の一貫性を図っています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内各種施設に勤務する全職員を対象に、福祉に関する幅広い研修を行ないスキルアップを図っています。外部研修は職務に関連した担当者研修が中心で一般職員の出席が少なく、出席後の伝達研修を通じた共有体制は十分ではありません。	○	職員の職務上の立場や実務の習熟度などに応じ、段階的にスキルアップを図る年間研修計画による研修を始め、外部研修には多くの職員の受講や研修内容の共有体制など、職員を育てる運営面の工夫を期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内各種福祉施設とは日常的に交流を行ない、福祉に関する幅広い研修を行なっています。また、市グループホーム連絡会に出席し、同業者との交流・研修を行なっていますが、同業者による質向上に向けた協働体制までには至っていません。	○	同業者との相互の訪問・見学・研修を通して、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流や連携を図り、事業者同士が協働しながら質向上を目指す取り組みを期待します。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅・病院いずれからの入居者も家族からの相談と共に、やむを得ずのいきなり入居が多く、入居後に職員が連携し馴染みの関係づくりに努めています。	○	入居相談と共に、職員による自宅訪問や利用者・家族のホーム見学を繰り返して、安心して入居ができるように家族や関係者の協力を得た段階的な支援の工夫を期待します。
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事全般や畑仕事・レクリエーションを一緒に行ないながら、会話の中から教をいただく場面作りを通し、一緒に過ごし支え合う関係性を築いています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の日常的な観察や家族・関係者からの情報提供を基にライフヒストリー表に累積し、その人らしく暮らし続ける支援に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者に関する問題状況を始め、利用者と家族の思いや希望などを踏まえたアセスメントを基に、計画作成者が作成した原案をケア会議でカンファレンスを行ない、家族に説明・同意をいただいて作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各種サービスやサポート内容の点検・確認など、モニタリングを3ヵ月毎に行ない、変更がなければ継続し、6ヵ月毎に定期的見直しを行なっています。利用者の状況変化や家族・利用者の要望に応じて、実情に応じた臨時応変の見直しも行ない、新たな計画を作成しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族が安心して暮らし続けられるように、通院・外食・買物などの送迎や外出行事など、要望を基に臨機応変に対応しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回協力医療機関の診察を受けていると共に、半数の利用者は従来からのかかりつけ医の診察を受けています。受診内容はいずれの場合もホームで把握し、医師・家族への連絡は密接に行なっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に利用者・家族に対し、重度化した場合の対応として、早めにかかりつけ医の受診を検討することで記録に残し共有していますが、重度化への対応指針がなく、ホームの対応方針の共有が十分ではありません。	○	終末期の対応指針を作成し、終末期を迎える利用者を支えるために、日常の健康管理や急変時への対応について話し合いを行ない、方針の統一を図ることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は対人サービスに携わる立場を認識し、日常の会話や排泄時の対応など、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努め、その都度改善意識を持ち徹底を図っています。採用時研修でも取り上げ、ホーム全体で取り組んでいます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして基本となる1日の流れはありますが、時間を区切った過ごし方ではなく、利用者のペースにそって見守りながら、一緒に生活をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は1週間分を発注し事業者納入になっていますが、利用者の嗜好や思いを大切に献立変更を弾力的に行なっています。利用者の意志と力を活かしながら、買物・配下膳・テーブルクロス畳みなどを職員と一緒にしない、食事が1日の大切な活動になっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせた入浴支援を週3回を目処に行なっています。拒む場合は、無理強いつけずにタイミングに合わせて入浴支援を行なっています。浴槽の構造上の問題から車いす対応ができず、身体に障害を負っている利用者はシャワー浴を行なっています。	○	ホーム開設時から8年が経過し、全ての身体状況に対応できない浴槽となりましたが、利用者の実情に即した浴槽の改修、若しくは施設内の浴室利用など、利用者本位に考え早急な改善を期待します。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花札・カルタ・歌・園芸・食事の一連の活動など、習慣・希望・有する力を活かした役割・楽しみ事の場面づくりが行なわれています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物・散歩・通院などの日常的外出を始め、花見・紅葉・外食などの外出行事や個別性の外出も取り入れ、戸外に出られる機会を多く確保しています。法人の車椅子対応車を利用しドライブを楽しんでいます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は鍵のないケアの大切さを理解し、21時～翌朝9時を除く時間帯は施錠はせずセンサーを設置し、見守りを徹底した自由な暮らしを支援しています。不測の外出には職員が後ろに着き、外の空気を吸って戻るようにしています。		

苫小牧市 グループホーム ハーモニー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を決め設備点検を定期的を受けています。火災を想定した避難訓練を法人主催の合同訓練とホーム主催の訓練を消防署と地域の指導・協力をいただいて実施しています。地域を含む法人全体の連絡網を作り、通報・消火の自動化がなされています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内施設の過去の献立例を参考に利用者の嗜好を取り入れた貢献を立て、食材を外注しています。水分・食事摂取量を記録し、必要量の調整を行なっています。必要に応じ法人内施設の管理栄養士から専門的アドバイスをいただいています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感漂う広々とした居間兼食堂を中心に台所・浴室・トイレなどの共用空間が使い易くつながり、居間の広い窓から映る四季折々の風光より季節感を楽しめる作りになっています。共用空間の温湿度を始め、換気・空調などが適切に調整され、居心地よい共用空間です。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・クローゼット・洗面台・加湿器・パネルヒーターが設置された居室には、使い慣れた家具や調度品なども持ち込み、使い易く配置し、思い出の品・写真・作品などを掲示するなど、個性的で居心地よく過ごせる居室になっています。		

※ は、重点項目。